

LOCAL, IT Community Journey

一般社団法人LOCALのこれまでとこれから

2023年09月30日
一般社団法人LOCAL
理事 八巻 正行

一般社団法人LOCAL とは？

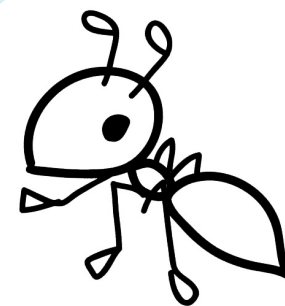
- **L**eading **O**rganization of **C**ommunity **A**ctivity for **L**OCAL
- URL : <https://www.local.or.jp/>
- 北海道における、技術系地域コミュニティ（IT勉強会等）の活動を支援し、コミュニティ間の連携イベント企画開催等をとおして、地域を盛り上げていくことを目標とする有志の集まり
- 所属、年齢、立場の垣根を超え、現役のIT技術者や、IT技術者を目指す学生が多数所属
- 理事:5名、正会員:29名、賛助会員:5名、メーリングリスト会員:180名
- 来る者拒まず、去る者追わず

なにをやっている集まりか？

- IT勉強会の開催
- IT勉強会の開催支援（コミュニティ支援制度）
- IT勉強会へ参加したい学生の支援（学生交通費支援制度）
- IT勉強会を開催したい学生の支援（LOCAL学生部）
- 情報セキュリティ人材育成・情報セキュリティ啓発（LOCAL安全部）
- 大規模イベント運営支援、コミュニティ間交流イベントの企画・開催
- 定例会（毎月第3木曜日 見学自由）

マスコット「ろかんと君」の由来

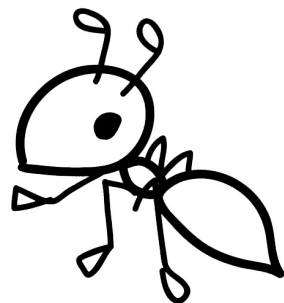
蟻 …「義」の虫
1匹1匹の力は弱いけど、
集まると結構いい仕事をするよ



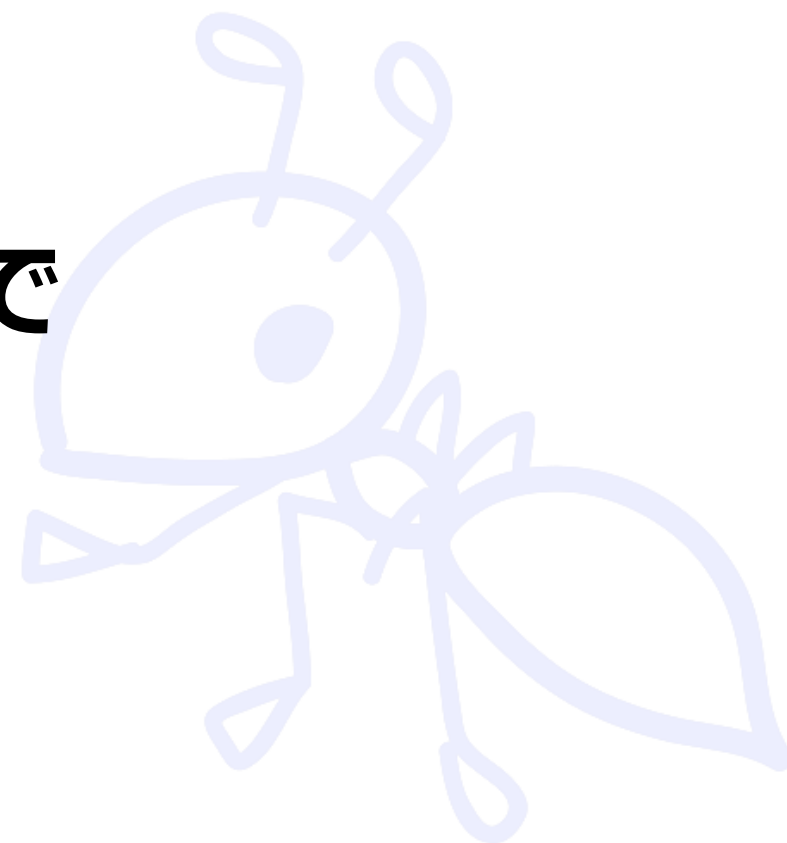
なにを目指しているのか？

北海道における技術者文化の醸成

???



LOCALのこれまで



年代	できごと
2004年	GoDo2004 - 北海道では初となる、コミュニティ主導によるOSSイベント開催
2005年	OSC2005 Hokkaido - オープンソースカンファレンス（OSC）として初の地方開催 - 以降、OSC Hokkaidoの企画・運営に深くかかわる
2008年	任意団体LOCAL結成
2009年	一般社団法人LOCAL 設立 - LOCAL Developer Day 初開催 - LOCAL学生部総大会 初開催 IPAより、2009年度日本OSS奨励賞 受賞

北海道でも、IT勉強会をやりたい、大規模ITイベントをやりたい

→ やって見たら、地域としての課題も浮き彫りになった

- 地域ユーザーグループの活動が停滞（数人のみがんばっている）
- 北海道は広い（札幌⇔旭川：134km、札幌⇔函館：253km、札幌⇔釧路：325km）
- お力ネがない
- 学生が首都圏に就職してしまう



- 「枠」をつかって継続的に活動できる団体に
- 社会的に認められる組織となり、資金獲得を目指す（社会に関わる）
- 「ここで仕事をしたい」と思えるような人・企業との出会いをつくる

一般社団法人LOCAL設立

年代	できごと
2010年代	この頃から、IT勉強会は誰でも開催できる時代になった - 企業によるユーザーグループ運営、会議室の貸し出し、コミュニティ支援
2011年	東日本大震災 - （個人的に）故郷とのつながりを強く意識するようになった - 北海道外にも目を向けるようになった - TwitterをはじめとしたSNSが一般にも急速に普及 OSC Hokkaido 実行委員会 立ち上げ - LOCAL会員でなくても、OSCに関わることができるように
2014年	セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道 - 開催、運営協力 後援から北海道開催の主催へ

活動を継続することで「縦のつながり」の重要性を実感

- かつての学生部、参加者だった学生や若手が成長して、講師として登壇、運営へ参画、恩返しをする側に
(観測した範囲では、縦のつながりを維持できている例は希少)

「横のつながり」は北海道外も視野に入れる

- SNSの普及で遠く離れた場所の様子が可視化、気軽にコミュニケーションできる
- 学生が首都圏に就職する → 成長して戻ってくることもある
- むしろ、首都圏や全国への挑戦を応援し、将来のU・I・Jターン、帰省のきっかけとしてのLOCALの存在こそ意味があるのでは？

情報セキュリティ啓発、人財育成関連の活動が活発化

- アクティブに動いているメンバーが情報セキュリティに興味があった
- 全国の主要団体・主要人物とのパイプがあった

年代	できごと
2015年	LOCAL Community Summit 初開催 北海道地域情報セキュリティ連絡会（HAISL） 発足 - 立ち上げ協力、発足時より会員となる 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会（Grafsec） 発足 - 第1回全国大会より参加、以降、継続して助成事業に採択 高校生ICT Conference in 北海道/札幌 開催協力 - 以降、札幌開催の主催へ
2018年	内閣府「青少年のインターネット環境整備に取り組む民間団体活動事例集」へ掲載
2020年	SC4Y 事業開始 - 立ち上げ協力、以降、企画・運営に継続して協力 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大 - 以降、活動の場をオンラインへ移行

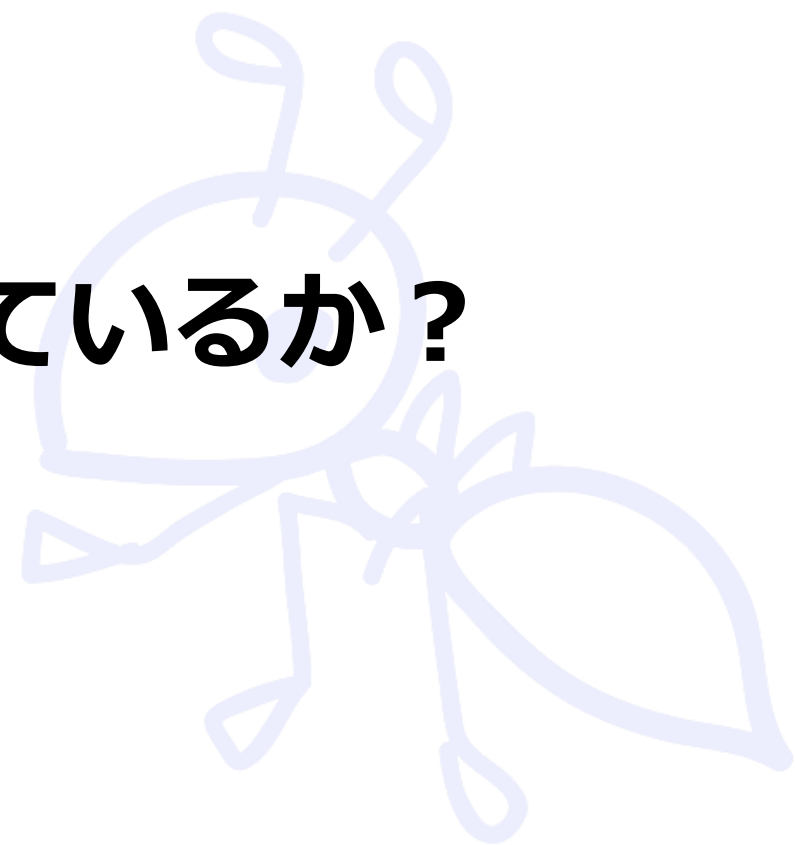
みんな毎年、+1年ずつ歳をとる

- かつての学生は就職し、働き盛りへ
- かつての若手は組織で重要なポジションへ、結婚や育児へ
- 大人たちも転職、転勤や引っ越しがあったり
- 一方で、毎年新たな学生や若手はやってくる

結果的に

- **ごく一部のメンバーがめちゃくちゃ頑張って活動を維持**
- 一方で、オンラインイベントの普及により、場所に捉われない協力も可能に
- 職場でのポジション、自由度が上がり、活動に戻ってきてくれるメンバーも
- **がんばって続けてきたからこそ、社会的信用の獲得**

**あらためて、
LOCALは今、なにをやっているか？**



遠隔地在住で金銭的理由により勉強会に参加しづらい学生へ、
交通費の一部を補助

学生の勉強会参加費の支援、道内コミュニティが主催するイベントの金銭支援、
人的支援

<https://www.local.or.jp/about/students-transportation-expenses-support>

LOCAL
Leading Organization of Community Activity for LOCAL
<https://www.local.or.jp/>

ホームLOCALについて最近の活動部活動お問い合わせ

LOCAL 学生交通費支援制度について

2012年07月31日 18:39

【趣旨】

一般社団法人LOCALでは「学生もいろんな勉強会に参加してほしい!」と思っています。
そこで、遠距離で交通費の支出が難しい学生向けに「学生交通費支援制度」を用意しています。
各勉強会コミュニティの主催者様は下記内容をご確認のうえ、ぜひご活用ください。

【支援内容】

- 学生1人あたり2,000円を上限とし、往復交通費の半額相当の金券(図書カードやQUOカード等)を支給します。(端数は、250円以上は切り上げ、250円未満を切り捨てます)
- 自家用車で相乗りする場合、代表者1名にのみ支給とします。
- 支給額が500円を下回る場合は対象外とします。(概ねイベント開催地近郊の学生は支援対象外となります)
- 定期券を持っている場合、定期券で移動可能な範囲は対象外とします。

[例] 主要都市～東札幌(札幌市産業振興センター最寄駅)までの交通費支援例

江別～東札幌	往復1,440円	→ (半額は720円=500円+220円)	→ 500円分を支給
小樽～東札幌	往復1,860円	→ (半額は930円=500円+430円)	→ 1,000円分を支給
千歳～東札幌	往復2,080円	→ (半額は1,040円=500円x2+40円)	→ 1,000円分を支給
苫小牧～東札幌	往復3,560円	→ (半額は1,780円=500円x3+280円)	→ 2,000円分を支給

最近の記事

- 2023年09月21日(木) 9月定例会
- 『セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道 2023』サポーターズを募集します!
- 『セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道 2023』を開催いたします!!
- LOCAL Developer Day Online '23 /Security を開催しました
- Hardening 2023 Generatives に北海道から参加する学生&若手の交通宿泊費を支援します!

カテゴリ

- お知らせ (59)
 - 感謝賛 (18)
- イベント情報 (370)
 - HAISL (20)
 - LCS (9)
 - LDD (31)
 - LSM (3)
 - OSC (40)

沖縄県名護市で開催された「Hardening Decade 2022」への参加費（北海道～沖縄間の交通費・宿泊費）を、株式会社川口設計と合同で全額支援

- 支援概要・参加者レポート： <https://www.local.or.jp/2022/09/9364.html>
- 勉強会（SC4Y）に参加して成長した学生が、全国に挑戦できる機会を提供
- 10月4日 ルスツ開催の「Hardening 2023 Generatives」についても全額支援**



学生によるIT勉強会の開催、学校を横断した交流、合同イベントの企画

- 学生がやりたいと思ったことをやる
- 原則、大人は見守るだけ「口は出さないが力ネは出す」
- 卒業後、IT技術者として成長した先輩達との交流も生まれている



LOCALが主催する、コミュニティ横断型・地域特化型IT勉強会イベント

- 北海道内で活動している様々なコミュニティと連携しながら、それぞれの技術や地域の特色を活かしたテーマで開催
- 近年では情報セキュリティをテーマにしたLDDを毎年開催



「地元を離れ首都圏で活躍している技術者や、いろんな地域のコミュニティと繋がろう！」というテーマのもと、LOCALが北海道を飛び出して、東京で開催するIT系勉強会イベント

- ・ 今年4年ぶりに、2023年11月25日（土）東京で開催予定



オープンソースに関する最新情報を提供するカンファレンス 1日で合計50本近くのセミナーやデモ、展示、北海道独自企画を開催

- URL : <https://event.ospn.jp/osc2023-online-do/>
- LOCALは実行委員会の活動支援に加え、北海道独自企画にメンバーが登壇
- 歴代の実行委員長をLOCALから数多く輩出



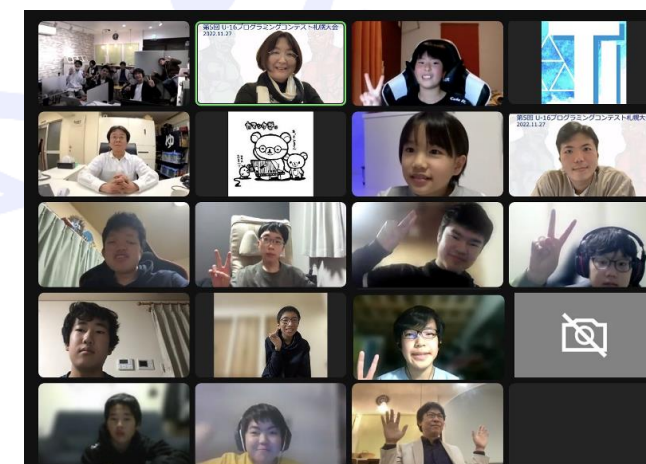
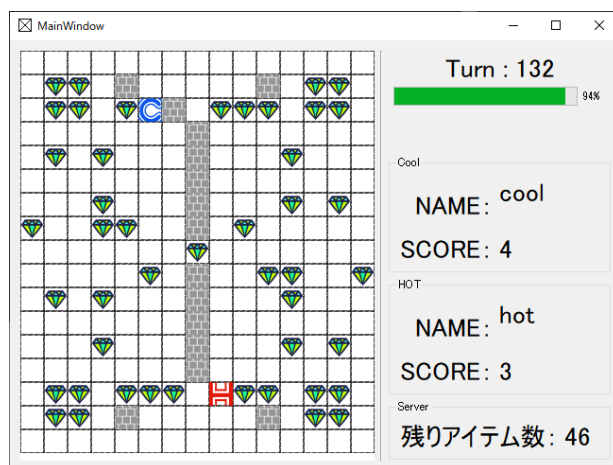
ICTを取り巻く課題をテーマに、全国各地の高校生が議論し、意見をまとめ、関係府省庁に提言するカンファレンス

- URL : <https://www.good-net.jp/ict-conference/2023/>
- LOCALは北海道大会協力団体として、司会進行、ファシリテーター・書記スタッフ派遣等、運営全般に協力



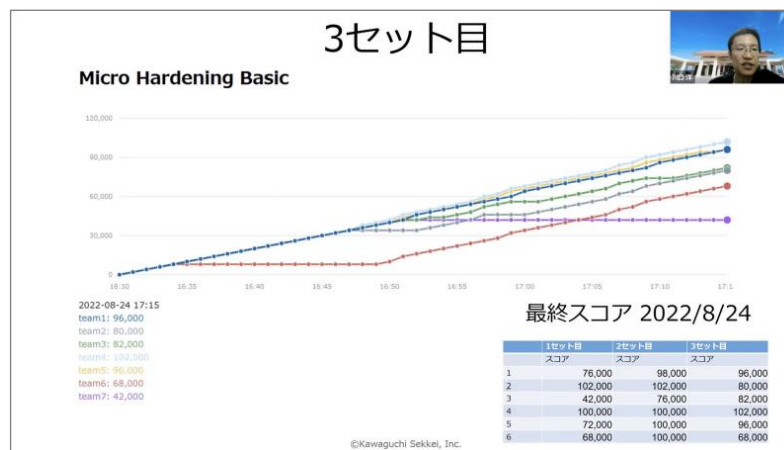
16歳以下を対象としたプログラミングコンテスト プログラミング、ものづくりを通して、子どもたちの成長と健全育成を図る

- URL : <https://sapporo.u16procon.org/>
- LOCALは札幌大会の共催団体として、事務局機能の提供をはじめ、大会運営全般を担当
- **今年は、10月29日（日）ハイブリッド開催**



学生・青年層に、サイバーセキュリティに関する知見と技術を体系的に身に付けてもらうための人材発掘・育成事業

- URL : <https://sc4y.connpass.com/>
- ゲーム形式でセキュリティを学ぶ「Hardening」大会への挑戦を目標に、数力年計画で若手人材を育成
- LOCALは運営協力団体として、企画立案、広報活動、オンライン配信システム提供、TA・スタッフ派遣を行っている



25歳以下の大学院生、学生、生徒を対象として、1泊2日で開催される、突出した情報セキュリティ人材の発掘、育成イベント

- LOCALは北海道大会の主催団体として、参加学生の支援、地元側の企画運営全般を担当
- **今年は3年ぶりに、11月11日（土）～11月12日（日）でオンサイト開催**



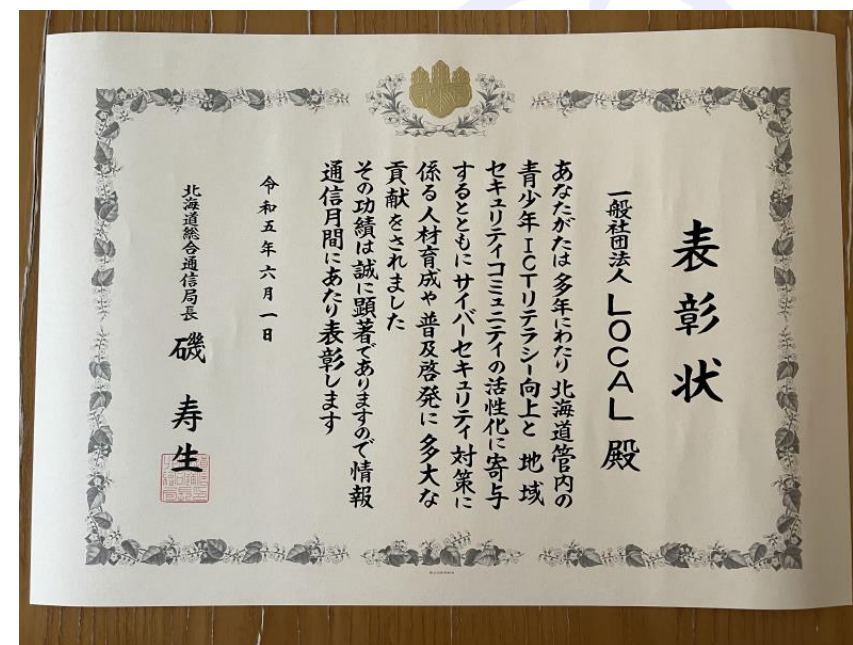
学校や保護者を対象とした、スマートフォンやインターネットを安全、適切に利用するための情報モラル、セキュリティ啓発セミナー

- LOCALでは、特に自力開催が難しい遠隔地を中心に、講師派遣、運営スタッフ派遣、講師育成などで協力
- 大学教職員向け、自治体職員向け、警察署員向けの講話も実績あり



令和5年度「情報通信月間」北海道総合通信局長表彰 を拝受

- 表彰理由「多年にわたり、北海道管内の青少年ICTリテラシー向上と地域セキュリティコミュニティの活性化に寄与するとともに、サイバーセキュリティ対策に係る人材育成や普及啓発に多大な貢献をした」



北海道における技術者文化の醸成

- **地域で技術者が楽しく暮らせる状態**
 - 同じ温度で話せる友人がいること
 - 世界や東京に変にコンプレックスを持たない
 - 楽しい仕事に就いていること
- **新しいことをやろうとしたときに仲間がいる状態、挑戦的なことをやっている人、面白い人が見えている状態**
 - 学生の就職の選択肢として、地元を見られる状態
 - まともな仕事があり、働いている大人たちが楽しそうにしている背中を見られること
- **互いに尊敬し、認め合い、高めあえる人・企業とのつながり**

縦と横のつながりを作り、維持すること

- **横のつながり**

- オンライン（ソーシャル）、オフライン（勉強会）
- 地域間のつながり、組織や学校を跨いだつながり

- **縦のつながり**

- 世代間のつながり、50代の社長と10代の高校生が話をできる環境
- 世代ごとの役割
 - ✓ 学生：いろいろやってみる
 - ✓ 20代：挑戦
 - ✓ 30-40代：実際に動かす、後進に伝える、助ける
 - ✓ 50代-：人脈、経験、お金

LOCALのこれから



誰か一人が活動方針を決めるものではない

- 全員が、できる範囲で、やりたいと思ったことをやる

ただし、コミュニティ活動は「手段」であって、目的ではない

- LOCALの目標「北海道における技術者文化の醸成」ができた時、もはやLOCALによる支援を必要としなくなった時、私たちはいつ解散してもよい

それでも「継続すること」で見えてくるもの

- 「いつでもそこにあること」いつでも帰ってきたいと思える安心感と信頼感
- 次の世代に、楽しそうにやっている姿を見せ続けたい
- つまり、若者だけでなく、自分たちが挑戦、成長できているか

「今しか、今年しか参加できない」学生、若手へ機会提供を継続

- 高校生 ICT Conference、SC4Y、セキュリティ・ミニキャンプ、U-16プロコン等の継続
- LOCAL学生部、学生交通費支援等の継続

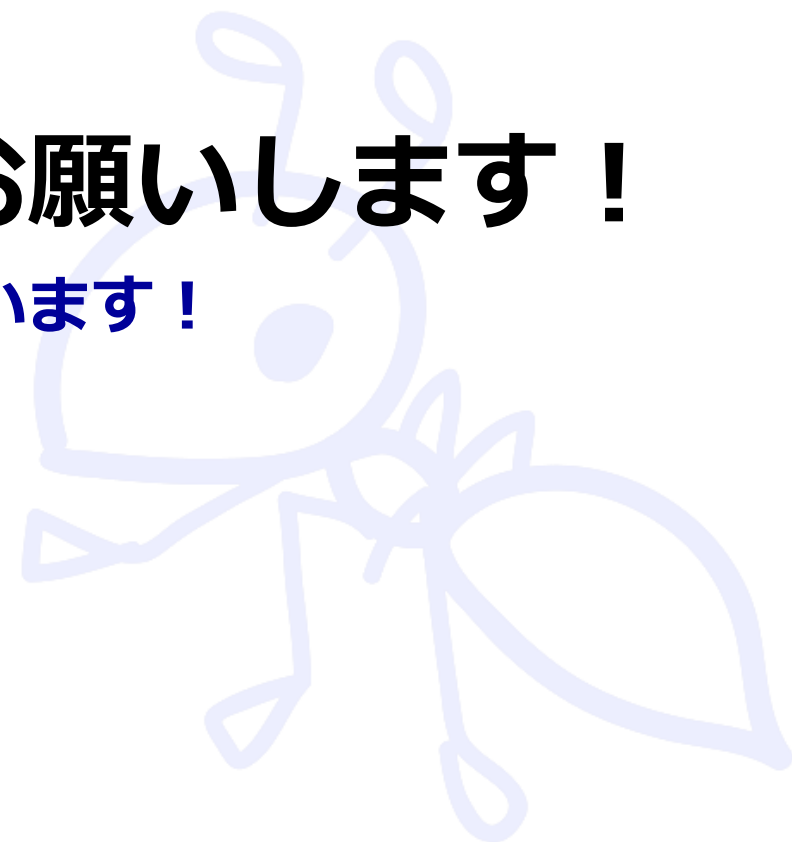
2023年度はオンサイト開催の復活に挑戦

- 現地でしか体験できない熱量、情報量、出会いを取り戻す
- 一方で、オンラインの利便性を否定せず、必要に応じて使い分ける



引き続き、LOCALをよろしくお願いします！

あと、一緒にやりたい人も募集しています！



- 北海道のころみ （2008年 代表理事 澤田による OSC島根 発表資料）
- 一般社団法人LOCALの紹介
 - <https://www.local.or.jp>
- しあわせに、くらしたい。～地方都市における技術者文化に関する一考察および提案～
（2016年 代表理事 澤田による、TechLION仙台 発表資料）
 - <https://techlion.jp/archives/10707>
- 2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
他地域のコンソーシアムで行なっている事業活動実態把握のための調査
（LOCALの設立経緯と活動について、19ページにわたるインタビュー結果と考察あり）
 - <https://www.local.or.jp/2020/04/8984.html>

活動の最新情報は、LOCALのSNSサイトでもご覧になれます

X (旧Twitter) : [@local_hokkaido](https://twitter.com/local_hokkaido)

Facebook : <https://www.facebook.com/local.or.jp>